

# 令和7年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立糸崎小学校

【別紙1】

## 1 本年度の結果

### ①全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対全国比)	66 (95)	66 (103)	( )
本年度結果 (対全国比)	74 (110)	59 (101)	63 (110)

### ②学習環境調査 icheck 【個人の心の安全 自己肯定感×学級適応感】

		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
A	人数(人)	12	7	17	14	10	10	8	6	13	16	4	8
	割合(%)	60	41	50	50	38	40	38	28	38	50	19	38
	人数(人)	5	8	7	11	9	9	9	9	15	10	10	8
B	人数(人)	25	47	20	39	34	36	42	42	44	31	47	38
	割合(%)	25	47	20	39	34	36	42	42	44	31	47	38
	人数(人)	3	1	9	3	2	1	3	3	3	3	1	2
C	人数(人)	15	5.9	26	10	7	4	14	14	8	9.4	4	9.5
	割合(%)	15	5.9	26	10	7	4	14	14	8	9.4	4	9.5
	人数(人)	1	1	0	5	4	1	3	1	2	4	2	2
D	人数(人)	5.9	2	0	19	16	4	14	2	6.3	19	9.5	
	割合(%)	5.9	2	0	19	16	4	14	2	6.3	19	9.5	
	人数(人)	0	0	0	1	0	2	1	2	1	2	1	
E	人数(人)	0	0	0	0	4	0	0	5	3.1	9	4.8	
	割合(%)	0	0	0	0	4	0	0	5	3.1	9	4.8	

### ③学習環境調査 icheck 【クラスの成長力 規律と思いやり×発信力】

		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
A+B型	人数(人)	12	8	28	18	17	16	13	8	20	20	13	12
	割合(%)	22	47	31	64	23	64	25	38	23	6	24	57
	人数(人)	11	12	18	13	14	14	10	10	13	17	5	7
A+C型	人数(人)	11	12	18	13	14	14	10	10	13	17	5	7
	割合(%)	20	70	20	46	19	56	19	47	15	53	9	33
	人数(人)	13	11	22	19	13	10	13	17	19	11	14	
A+D型	人数(人)	24	64	24	67	26	52	19	61	20	59	20	66
	割合(%)	24	64	24	67	26	52	19	61	20	59	20	66
	人数(人)	9	5	16	15	12	11	11	11	21	15	16	14
B+D型	人数(人)	16	29	17	53	16	44	21	52	24	46	30	66
	割合(%)	16	29	17	53	16	44	21	52	24	46	30	66
	人数(人)	8	9	6	10	9	9	8	13	14	12	8	9
C+D型	人数(人)	15	52	6	35	12	36	15	61	16	37	15	42
	割合(%)	15	52	6	35	12	36	15	61	16	37	15	42

### ④学力定着調査(R6 NR2、R7標準学力調査)

		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア	前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア	前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア	前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア	前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア	前年度結果 標準スコア	本年度結果 標準スコア
国語	前年度結果 標準スコア	54.4	51.5	50.3	52.4	51.8	48.9						
	本年度結果 標準スコア	54.4	51.5	50.3	52.4	51.8	48.9						
算数	前年度結果 標準スコア	58.1	52.6	52.6	52.6	52.1	50.9						
	本年度結果 標準スコア	58.1	52.6	52.6	52.6	52.1	50.9						
理科	前年度結果 標準スコア			55.4	51.5	53.9	55.4						
	本年度結果 標準スコア			55.4	51.5	53.9	55.4						

## 2 本年度の取組について

### ①調査から明らかになった課題

【全国学力・学習状況調査をうけて】	【標準学力調査をうけて】
<p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報の扱い方に関する事項に課題がある。(全国63.1%に対し、本校55.0%)</li> <li>●情報の多さに慣れずおろそか、たくさん資料を読み切れていない、資料と設問が離れているため考えにくい、自分の知識や経験と勝手に関連付け、思い込みや固定観念で考えているなどが要因と考えられる。</li> </ul> <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●図形(全国56.2%に対し、本校53.8%)、変化と関係(全国57.5%に対し、本校48.3%)に課題がある。</li> <li>●図形の一般的なイメージはあるが定義が不十分でイレギュラーなものに気付けず、情報が多くて必要な情報が読み取れず何を問われているか分からない、問題文の想像ができていないなどが要因と考えられる。</li> </ul> <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●どの単元も全国平均を上回っている。問題形式として、「短答式」(全国69.7%に対し、本校70.9%)に課題がある。</li> <li>●実験結果は覚えてはいるが一般化ができていない、問題文の意味を読み取れていない、電池を入れ替える体験など生活体験の不足などが要因と考えられる。</li> </ul>	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることと、主語と述語を正確に捉えることに課題がある。</li> <li>●計算問題を正確に解くことに課題がある。</li> </ul> <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●物語文や説明文の内容を正確にとらえることに課題がある。</li> <li>●条件にあてはまるものを選び、選んだ理由を式と文章で説明することに課題がある。</li> <li>●中心となる語や文を見つけて要約することに課題がある。</li> <li>●乗法や除法の式から文章問題を選択したり、文章問題から式を選択したりすることに課題がある。</li> </ul> <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の由来や連用修飾語などの言語の問題、資料から読み取りに課題がある。</li> <li>●図がない時に体積が面積のどちらを求めようか考える問題や、人口密度から人口を求めた問題など、図や表の内容を活用して問題の解き方を考え、説明することに課題がある。</li> </ul> <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の由来や連用修飾語などの言語の問題、資料から読み取りに課題がある。</li> <li>●図がない時に体積が面積のどちらを求めようか考える問題や、人口密度から人口を求めた問題など、図や表の内容を活用して問題の解き方を考え、説明することに課題がある。</li> </ul> <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の由来や連用修飾語などの言語の問題、資料から読み取りに課題がある。</li> <li>●図がない時に体積が面積のどちらを求めようか考える問題や、人口密度から人口を求めた問題など、図や表の内容を活用して問題の解き方を考え、説明することに課題がある。</li> </ul> <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の由来や連用修飾語などの言語の問題、資料から読み取りに課題がある。</li> <li>●図がない時に体積が面積のどちらを求めようか考える問題や、人口密度から人口を求めた問題など、図や表の内容を活用して問題の解き方を考え、説明することに課題がある。</li> </ul>
<p>【icheck 1回目(12月)をうけて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2、4年生は、A+B型(学級の規律は守られ、お互いに思いやりを持って接しているが、発信力にばらつきがある状態)</li> <li>●2年生は、A+D型(A&gt;D)(多くの児童が自己発信できており、学級の規律も守りつつお互いを思いやることのできる状態)</li> <li>●3年生は、A+D型(A&gt;D)(多くの児童が自己発信できており、学級の規律も守りつつお互いを思いやることのできる状態)</li> <li>●5、6年生は、B+D型(全体として発信力に課題があり、規律を守ったり相手を思いやりたりする姿勢にばらつきがある状態)</li> <li>●個人の心の安全においてEにあたる児童が5年生と6年生に各2名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3、5年生は、A+B型(学級の規律は守られ、お互いに思いやりを持って接しているが、発信力にばらつきがある状態)</li> <li>●2年生は、A+D型(A&gt;D)(多くの児童が自己発信できており、学級の規律も守りつつお互いを思いやることのできる状態)</li> <li>●4、6年生は、A+D型(A&lt;D)学級の規律や、お互いを思いやる姿勢に課題があり、人間関係が希薄である状態)</li> <li>●1年生は、A+C型(発信力がある一方で、相手を思いやりたり、規律を守ったりすることに課題がある状態)</li> <li>●個人の心の安全においてEにあたる児童が3年生と5年生と6年生に各1名いる。</li> </ul>

### ②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【全国学力・学習状況調査の結果から】</p> <p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●読書を推進する。(1か月2冊以上)</li> <li>●授業で文章の部分だけを取り上げて考えるのではなく、文章の読み方(比較、関連付け、構成、接続詞など)も考えさせるようにする。</li> <li>●何について書かれた文章かを意識して読み進められるようにする。</li> </ul> <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●既習事項とのつながりを意識することができるようにする。</li> <li>●キーワードだけを使って問題を解くのではなく、問題文の状況をイメージする。</li> <li>●イレギュラーな形の図形も分類分けできるようにする。</li> </ul> <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実験結果と「そこから分かること」の違いが分かるようにする。</li> <li>●実験の条件を読み取る力をつける。</li> </ul>	<p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●読書を推進する。(1か月2冊以上)</li> <li>●授業で文章の部分だけを取り上げて考えるのではなく、文章の読み方(比較、関連付け、構成、接続詞など)も考えさせるようにする。</li> <li>●何について書かれた文章かを意識して読み進められるようにする。</li> <li>●導入で既習との違いを問ったり、児童の困り感を共有したりする。</li> <li>●問題のイメージを描くために、具体物や図を使う。</li> <li>●問題解決場面では、表・グラフに関連づけて考える活動を設定し、問題文を基に言葉の式に表したり、表された式の意味を児童が説明できるようにする。</li> <li>●図形は、定義を定着させ、適応問題でイレギュラーな形にも触れるようにする。</li> </ul> <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生活体験が不足を補えるように、ひとつひとつの実験を丁寧に行う。</li> <li>●実験結果をまとめた後に、実験結果から分かることを「つまり」等の接続詞を使ってまとめる機会を設ける。</li> <li>●反復練習(ドリル)で復習まで行い、問題を読む力、読解力を引き続きける。</li> </ul>	<p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学期末テスト「知識・技能」、「思考・判断」の平均が80%以上の児童の割合が80%</li> </ul> <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学期末テスト「知識・技能」、「思考・判断」の平均が80%以上の児童の割合が80%</li> </ul> <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学期末テスト「知識・技能」、「思考・判断」の平均が80%以上の児童の割合が80%</li> </ul>
<p>【標準学力調査から】</p> <p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一つ一つの言葉に注目して読み込み、主語と述語を正確に読み取ることで、文章からイメージする力をつける。</li> <li>●計算カードは、速さだけでなく「正確性も求めていく」。</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イメージをもちながら(想像しながら)読む習慣をつける。</li> <li>●自分の考えを根拠をもち、式や言葉で適切に説明する力をつける。</li> </ul> <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●複数の資料の中から必要な情報を取り出す練習をする。</li> <li>●問題文を読んで場面をイメージし、問題文と式を合わせて考える。</li> </ul> <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●問題の傾向に慣れ、複数の資料の中から必要な情報を取り出す練習や条件作文を行う。</li> <li>●苦手分野に取り組みせたり、補助線の引き方を指導したりする。</li> </ul> <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●類似問題を継続して解くことで、パターンを覚えたり、社会科・総合などと組み合わせず資料の読み取り、まとめる作業を授業内で実践して行く。</li> <li>●聞かれていることに線を引き、何を問われているのかをしっかりと確認する習慣をつける。</li> <li>●既習内容を応用した問題に触れる機会を時間をとる。</li> <li>●数語の理解と定着を図る。</li> <li>●数語や目的、条件の題意を正確に読み取り、必要なことを書く。</li> <li>●分数の乗法、除法の単元を再度指導し、習熟を図る。</li> </ul>	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文字から想像し、絵に表したり演じたりする等して表現する時間を授業時間内で確保する。</li> <li>●問題の傾向についても、訂正を児童任せせず、教師が問題点を指導しながら訂正を行う。</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●絵で表す「動作化する」「劇化する」「ペーパーワーク」など多様な方法で考えを表現させる活動を仕組む。</li> <li>●自分の考えの根拠を式やことばで表現する活動を繰り返す行う。</li> </ul> <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●根拠となる部分に線を引かせて確認する習慣をつける。</li> <li>●問題文から具体的な場面をイメージさせたり、式と問題文を関連付けて説明したりする機会を設ける。</li> </ul> <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニ日記やR80などを活用して、条件作文を行ったり、宿題などで練習問題に取り組んだりする。</li> <li>●両計算だけでなく、計算のきまりや小数の問題にもドリルタイムなどで取り組む。</li> </ul> <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ドリルタイムや宿題で類似問題を出題したり、社会科・総合・理科などの資料を取り、まとめる作業を意図的に仕組んだりしていく。</li> <li>●テストや普段の授業・宿題など様々な場面で線を引き、確認をしたりする声掛けをしていく。</li> <li>●練習問題に取り組む際に、応用問題も準備しておき、問題に触れる機会を増やしていく。</li> </ul> <p>6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●数語の種類や意味を再確認し、日常の中でも使う。</li> <li>●問題文の意図や条件を正確に読み取るために線を引き印をつけたりする。</li> <li>●分数のかけ算、わり算の意味を再確認し、問題文、図、式を関連させた問題に取り組ませる。</li> </ul>	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul> <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul> <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul> <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul> <p>6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る</li> </ul>
<p>【icheck(1回目・2回目)から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安心できる環境づくりを行う。</li> <li>●児童の自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習面でも生活面でも、友達と関わることを増やす。</li> <li>●安心できる環境の中で、一人一人が活躍できる場を設定する。</li> <li>●週に1回の学級遊び</li> <li>●学期に1回の糸小ギネスの実施</li> <li>●ポジティブな考え方、SSTについて全校で取り組み、友達との関わり方について学ぶ機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分のことアンケートの以下の項目で肯定的な評価をしている児童の割合「1自分にはよいところがある」「2みんなの役に立っていると思う」「3困っている人に声をかけることができる」「4自分のことを分かってくれる人がいる」</li> </ul>